

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：ロボットとの未来を考える ILAS Seminar :Let's think about the future with robots			担当者所属 職名・氏名	情報学研究科 教授 神田 崇行 情報学研究科 助教 SEO Stela Hanbyeol		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)	25 (15) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	総合研究7号館セミナー室1(本部構内)(本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	ロボット / 人工知能 / コミュニケーション						
[授業の概要・目的]							
ロボットに関する研究開発が進み、人間そっくりの外見のアンドロイドロボット、人のように二足歩行するロボットなどが作られるようになってきた。「Pepper (Softbank)」「Astro (Amazon)」など、人とコミュニケーションするロボットの商品化も進む。時には店頭などの日常空間でもロボットを目にするようになってきた。 この授業では、もう少し技術開発が進んだ近い将来にこのようなロボットが我々の日常生活に入ってくる将来像について考える。そのために、資料の輪読とアクティブラーニング形式の学習により、人々とコミュニケーションする「ソーシャルロボット」にかかわる諸技術について入門レベルの知識を学ぶ。また、ワークショップ形式でロボット(特に、ソーシャルロボット)がどのように我々の日常生活の中に入ってくるのか、その将来像を検討する。これらの題材を通じて大学でこれから身に着けることが期待される、自ら能動的に学ぶ力、対話から学ぶ力、新しいアイデアを生み出す創造性、に触れることのできる少人数制の授業を行う。							
[到達目標]							
人々とコミュニケーションする「ソーシャルロボット」に関する入門レベルの知識を習得する							
[授業計画と内容]							
授業計画は下記の通りである。1課題あたり1～2週の授業を予定する。ただし講義の進捗などに応じて一部内容を変更する場合がある。なお、授業回数はフィードバックを含め全15回とする。 1. 導入 2. ロボットのハードウェア 3. 人工知能 4. 人間のコミュニケーション 5. ソーシャルロボットのアプリケーション 6. 倫理・法的・社会的な課題 (ELSI) 7. ワークショップ: ロボットとの未来を考える 8. 発表と議論							
[履修要件]							
2回目の授業から、各自、ノートPCを持参すること。ノートPCを準備できない場合には、事前に教員にコンタクトをとること。							
----- ILASセミナー：ロボットとの未来を考える(2)へ続く↓↓↓ -----							

ILASセミナー：ロボットとの未来を考える(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価（授業への参加状況、小レポート）による

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

配布資料をもとに予習・復習をすること

[その他（オフィスアワー等）]

オフィスアワー：メールによる事前予約のこと。メールアドレスは以下の通り：

神田：kanda@i.kyoto-u.ac.jp